

令和4年度（2022年度）島根県立大学
地域政策学部 地域政策学科
地域づくりコース

総合型選抜（自己推薦）

小論文

【解答時間 90分】

以下の注意事項をよく読んで指示に従うようにしてください。

指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 試験問題は、第1問と第2問があります。全ての問題に解答してください。解答時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから6ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

第1問 次の文章①②のテーマは、「地域づくり」を考えるうえで参考になる内容である。以下の文章①②を読んだうえで、設問に答えなさい。

文章①

仕事を作るとは言っても、人口減少地域では需要に限りがあり、ビジネスとしての見通しは決して明るくありません。過疎地域では、少数の顧客が広域に分散するため、サービス供給の効率が悪化します。例えば訪問介護やデイサービスなどの事業所を立ち上げたとしても、単一のサービスを提供するビジネスモデルでは、事業の発展が望めないばかりか、事実上サービス供給ができなくなるという地域が多いと思います。

こうした状況で考えるべきは、提供するサービスの種類を増やし、複合的なサービスを提供することでビジネス全体を成り立たせる方策です。

(略) 休校していた小学校を再開させた事例で取り上げた岡山県笠岡市の笠岡諸島には、かさおか島づくり海社という NPO 法人があります。笠岡諸島は、諸島を構成する 7 つの有人の島を合わせても人口は 1954 人しかおらず、高齢化率は 66% に達します (2015 年 10 月 1 日現在)。かさおか島づくり海社は、このような離島で暮らし続ける上で生じるさまざまな課題を解決することを目的に、2006 年に NPO 法人格を取得し、体系的なサービスの提供を開始しました (※原注)。

島づくり海社の活動は、デイサービス、コミュニティバス運行、島のきずな便 (買い物支援)、特産品開発、保育園運営、空き家対策、笠岡諸島のプロモーションなど、書き切れないほど多岐にわたります。デイサービスの施設はすでに 4 カ所設置されており、現在さらに多様な高齢者福祉施設の提供を目指しています。

島のきずな便は、本土のスーパーに発注のあった商品を、島づくり海社が島の港で受け取り、仕分けして各戸に配達するサービスです。商店のほとんどない島での暮らしを支える生命線となっています。

保育園事業に関しては、就学前の子どもが複数名いた六島において、2006 年に市があゆみ園という名称の保育園を設置しました。あゆみ園は、島づくり海社がその運営を担う公設民営の保育園です。そうした子育て環境の整備が、(中略) 4 年間の休校を経て、2007 年の六島小学校の再開につながっています。

しかし、どのサービスも需要に限りがあることから、それぞれ単体では事業の維持は困難です。例えば、薄利の買い物支援やそもそも収益源が見当たらない空き家対策だけで、組織を回すだけの収益を上げることが難しいのは自明です。

島づくり海社は、市役所などと連携し、地域の暮らしを支えるサービスを一手に引き受け提供する「何でも屋」です。複合的なサービスを提供することで、持てる資源を効率よく活用し、ビジネスとして成り立たせているわけです。

もちろん、福祉分野などにおいて公的役割を担っていることから、純粋な民間ビジネスではありません。しかし、民間に近い組織が地域の公的サービスを担うことで、ムダが抑えら

れて効率性の向上が期待されるとともに、一定の雇用が生み出されています。

(原注)

・NPO 法人格を取得する以前から、官民それぞれの福祉や島おこしのための活動が動いており、2006 年に改めて NPO 法人かさおか島づくり海社が設立されました。

【出典】藤波匠『人口減が地方を強くする』日経プレミアムシリーズ 302、日本経済新聞社、2016、121～123 頁

※作問のため一部表記を改め、また、省略した箇所がある。

文章②

「君子は器ならず」

『論語』為政篇に、

君子は器ものではない。

子曰、君子不器。

という。この言葉に南宋の朱子^{なんそう} (①) は註釈して次のようにいう。

器とは特定の役には立つが、融通をきかすことはできない。完全な能力をもつ士大夫は、本体(潜在的な能力)は完全だから、その作用は全てに^{はたらき}適応する。単に「一材一芸」のみではない。

器者、各適其用。而不能相通。成徳之士。体無不具。故用無不周。非特一材一芸而已。(『論語集註』)

朱子は、君子を「一材一芸」だけのものではない、と解釈している、君子は^{スペシャリスト}専門職を担当するものではない。^{ゼネラリスト}総合職を担当するものだというのである。中国近世期の指導者層ともいべき士大夫読書人が、幅広い教養をしこたま身につけることを要請されたことと、『論語』の「君子は器ならず」という君子論とは、地下水脈でつながっている。(中略)

君子というものは、特定の役目しかはたせない「一材一芸」の器ではない、と。いいかえるならば、君子とは、何でもこなすマルチ型人間・ゼネラリスト・総合職と理解されたわけである。(中略)

明代末期に中国にやってきたマテオ・リッチ^(②) が、中国では哲学者が国政にたずさわっている、哲人政治の国だと驚嘆している。もちろん、実際の政治は次元の低い所で権力闘争を展開していたにしても、政治にたずさわる士大夫は、哲学が理解でき詩文創作に秀れていることを「科挙」の試験で証明ずみの人たちであった。

はてさてそれでは、誰もが何も彼も人並み以上にこなすことは可能だろうか。考えるまでもなく答えは否である。それでもなお、建前としてであれ、「君子は器ならず」、できた、できる、と主張しえたのはなぜか。

特に本領とする分野以外は、広くカバーしさえすればよく、その出来栄えの程度は浅くともよしとしたこと。何よりも、各分野における「器」(スペシャリスト)であることを最

初から放棄していたこと、であろう。(中略)

マテオ・リッチたちイエズス会士たちが中国に紹介した西欧の自然科学が大きな刺激となって、清朝中期には天文暦算数学などが盛況をみるが、しかもなお彼らは君子としてそれに従事した。個々の分野では徹底して第一級の「器」でありつつ、それ故にこそマルチ型の大活躍をしたレオナルド・ダ・ヴィンチ⁽³⁾は、「君子は器ならず」とした中国には生まれるべくもなかった。知的世界から専門職を排除したことがもたらした負の代償はあまりにも大きい。

となると、『論語』の「君子不器」とは君子をほめた発言なのだろうか。君子は専門家としては役に立たないよ、と警告したのではなかったか。

〈出題者注〉

①**朱子** 南宋時代の儒者の名。生卒年は1130-1200。本名は朱熹。「朱子」とはもともと尊称だが、のちに広くこの名で認知されるようになった。朱熹が集大成させた学問は、「宋学」「朱子学」等と呼称されるが、国を超えて、東アジアのみならず、西洋思想にも影響を及ぼした。②**マテオ・リッチ** イタリア人イエズス会宣教師。中国名は利瑪竇^{リマトウ}。生卒年は、1552-1610。明代に中国に来て、キリスト教の教義や、西洋の自然科学を漢語(中国語)で説明し、また漢字を用いて書物を著した。③**レオナルド・ダ・ヴィンチ** ヴィンチ村のレオナルド。生卒年は、1452-1519。イタリアの芸術家、科学者。ルネサンス絵画の頂点を築いたとされる人物で、「モナリザ」「最後の晩餐」等の作品を残した。また、人体研究、自然観察、機械設計等、多岐にわたる素描も残しており、科学者の一面もあった。

【出典】吉田公平『陽明学からのメッセージ』研文出版、2013、51-56頁

※作問のため、一部表記を改め、また、省略した箇所がある。

問1 「地域づくり」に求められることとは何だと思うか、文章①②を参考にしながら、あなたの考えを500字程度で述べてください。

第2問 以下の文章を読んだうえで設問に答えなさい。

(A) 人類ガン細胞説というものがあります。母体のなかで爆発的に成長し、最後は母体とともに死滅するガン細胞に人類をなぞらえたものです。地球上の資源を加速度的に消費し、自らの生存環境に深刻なダメージを与えている私たち人類は、たしかにガン細胞に似たところがあります。永遠の経済成長を約束することによってしか現在の安定が得られない現代資本主義社会の構造が、こうした考えを後押しする要因となっています。

しかし、私は人類ガン細胞説には与しません。二つの点で、人類というものを誤って捉えていると考えているからです。

まず一点目として、人類ガン細胞説には、不遜とも呼ぶべき人類の驕りが見え隠れしています。それは、私たちにとっての母体である地球についての捉え方です。ガン細胞は母体を蝕みながら加速度的に成長を続けますが、最終的には母体を死滅にまで追いやることで自らも死滅するという罰を受けます。

人類の場合は、母体である地球環境を蝕みながら加速度的に成長を続ける点ではガン細胞と変わりませんが、最終的に死滅に至るのは人類であって地球ではありません。この点が決定的に異なります。地球から見れば、人類が存在しようがしまいがそんなことは知ったことではありません。もし仮に地球に意思があって自らの身を案じていることがあるとするならば、それは膨張を続ける太陽にいつの日か自分は飲み込まれてしまうのだろうかということと、たとえ太陽に飲み込まれずに済んだとしても、やがて起こるアンドロメダ銀河と銀河系の衝突を、自分は果たして無傷で乗り切ることができるのだろうか、ということぐらいでしょう。

人類が死滅するときに地球も死滅すると考えるのは、おこがましい限りです。人類が死滅したところで地球は存続し続ける以上、新しい地球環境に適応し、繁栄する生物が出てくるだろうと考えるのがふつうです。実際、人類のいなくなった世界でも、ゴキブリはまず生き残るだろうといわれています。

結局のところ、地球環境を守る運動とは、私たち人類をはじめとする現生生物が生存できる現環境を守る運動です。そうすることで私たち人類の生存に必要な現在の生物多様性を守り、人類の未来を切り開いていこうとする運動です。地球が危ないとかシロクマが可哀そうといった話ではなく、すべては「自分たち可愛さ」からくる運動なのです。このことは素直に認識すべきですし、その方が健全で、より問題に向き合いやすいはずです。自ら蒔いた問題の種は自らが解決しなければ、その災いは自らに降り注ぐ。因果応報、ただそれだけのことなのです。

人類ガン細胞説は、ネガティブな意味での因果応報の関係を示している点では正しいものですが、人類が地球をはじめ他の生物種すべての未来を背負っているかのような印象を与える点が、私にはどうしても気になるのです。そもそも他の生物種のことを考えれば、人類が地球上からいなくなることが一番の解決策であることは自明です。エネルギー問題に

連なる一連の地球環境問題を考えるにあたっては、私たちはもっと自分に素直になるべきなのです。

人類ガン細胞説に私が異議を唱える二点目の理由は、より前向きなものです。私たち人類にはガン細胞とは決定的に異なる特質があることを、人類ガン細胞説は見逃しています。まづもって私たちは、母体のことを何も知らないガン細胞と違い、母体である地球のかけがえのなさを知っています。

1968年、人類初の有人月周回飛行を行ったアポロ8号のミッション中に撮影された一枚の写真があります。Earthrise（地球の出）と名付けられたこの写真は、人類史上最も大きな影響を与えることになった環境写真ともいわれています。それまで無限の広がりを持っていると感じられていた地球が、広大な宇宙のなかに浮かぶ小さな島のような存在であることが、視覚的に理解できる一枚であったからです。人類は地球のかけがえのなさを、この写真を通じて明確に理解したのです。

さらに、私たちはただ母体を食い尽くすしかないガン細胞と違い、類まれなる優秀な頭脳を持っています。私たちはこの頭脳ので、「時間」というものを創造しました。そして時の流れのなかで行き当たりばったり生きるのではなく、過去の経験と知識を活かして将来を俯瞰し、計画的に行動することができるようになったのです。

カナダの生物学者デヴィッド・スズキによれば、人間を生物界における支配的な地位へと押し上げたのは、こうした「先見の能力」であるといいます。現時点では解決策が導かれているとは言い難い状況ではあるものの、それでも気候変動に代表される環境問題の存在については、人類社会に広く共有、認識されています。一見、問題ばかりに思える現状は、裏を返せば人類の持つ「先見の能力」の高さを証明しているともいえるのです。

人類は問題を認識し、それを解決することによって前進してきました。人類にこの能力が備わっている限り、将来を過度に悲観する必要はありません。むしろ何も問題がないと感じる世の中の方が、人類にとっては危険なのかもしれません。それはたぶん、何も考えずにひたすらに増殖を続けている最中のガン細胞が見ているであろう世界です。人類ガン細胞説は、人類の持つ類まれなる才能を無視した、余りにも悲観的な説だといえます。私たちはもっと自信を持つべきなのです。

【出典】古舘恒介『エネルギーをめぐる旅 文明の歴史と私たちの未来』英治出版、2021年
※文章は、第3部、第3章から一部抜き出したものである。作問のため一部表記を改め、リード文や注釈、画像を省略している。

問 1 下線部(A)に関して、人類ガン細胞説とは、人類をどのようにガン細胞になぞらえた説か、「母体」「地球上」というキーワードを用いて 100 字程度で説明してください。

問 2 人類ガン細胞説について、あなたの考えを 500 字程度で述べてください。